

【R4年度 大学教育研究センター 重点課題成果概要】

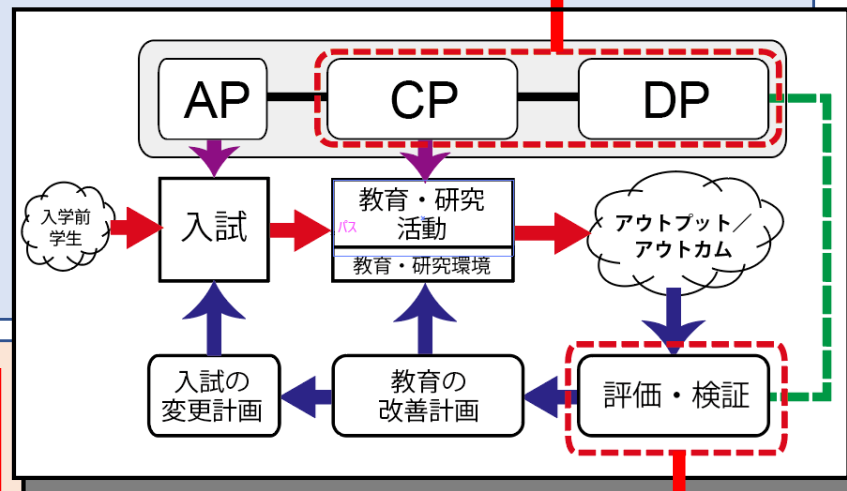
【重点課題①】 学士課程における教育目標とカリキュラムの最適化に向けた提案

R4年度目標

- 神戸スタンダード (KS)の策定意図と経緯の調査
- 全学DPとの関係性の整理と現行制度の課題の指摘

R4年度成果

- KSが教養教育の目標として限定されるに至った経緯を明らかにした。
- KSの運用上でさまざまな矛盾が生じていることを指摘した。



【重点課題②】 教育の質保証のための学修成果のアセスメントに関する研究

R4年度目標

- 学修成果の可視化という観点からの卒業時アンケート等の既存の調査の見なおし
- 学修成果の可視化機能を有するLAViSの運用上の課題の明確化

R4年度成果

- 既存のアンケート調査は学修成果を測定するには適切でないことを明らかにした。
- DP達成度を評価するにはCMを大きく見直す必要があることを明らかにした。
- 学修成果の可視化のツールである「ディプロマ・サプリメント」の具体案と課題を提示した。

【R4年度 大学教育研究センター 部門別課題成果概要】



大学教育研究部門

【課題①】 多文化理解共修のためのケース教材開発

R4年度目標：ケース教材コンテンツの基幹部分の作成

R4年度成果：ケース教材を7件作成

【課題②】 大学院生に求められる教育スキルに関する実践研究

R4年度目標：試行中の「大学教員インターンシップ」プログラムの効果検証と本格運用に向けた課題抽出

R4年度成果：博士課程大学院生計4名に対し、2週間程度の短期研修を試行

【課題③】 学生の深い学びを促す教育学習支援コンテンツの開発

R4年度目標：ポストコロナの大学教育を見据えた動画教材の活用に関する知見の提案

R4年度成果：反転授業の実施方法の紹介を中心としたFDの実施

教学IR研究部門

【課題】 教学IRの中核となる「教学IR推進室」のあり方についての提言

R4年度目標

- 他大学の教学IR推進体制についての調査
- 教学IR関係者を対象とした有識者による情報提供の機会の設定

R4年度成果

- 他大学の教学IR推進体制に関する情報収集
- 広島大学と共同セミナー『教学IRを教育改善につなげる』を実施

【R4年度 大学教育研究センター その他の成果概要】



大学教員準備講座（プレFDプログラム）

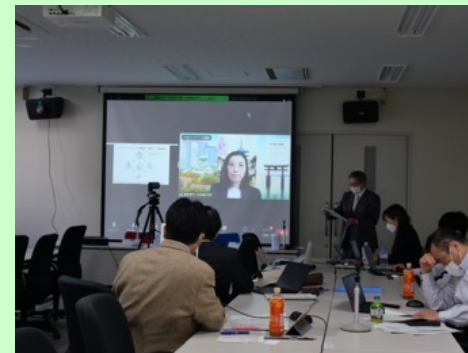
大学教員を目指す神戸大学博士後期課程学生を対象とした研修会

- 日時：2022年8月23日（火）～25日（木）
- 内容：講義（授業方法等）＋演習（シラバス作成等）＋実習（模擬講義等）
- 参加者23名（10研究科）＋SPRING（次世代卓越）プロジェクトとの連携

神戸大学&広島大学共同高等教育公開セミナー

大学教育研究センター設立キックオフセミナーの位置づけで開催

- テーマ「教学IRを教育改善につなげる」
- 日時：2022年11月18日（金）13時30分～16時30分
- 対面とオンラインライブ配信のハイブリッド開催
- 内容：基調講演2件＋報告2件＋総括討論
- 参加者104名



紀要の編集・発行の実務担当

「大学教育研究」第31号 2023年3月31日発行

〔特集〕 「教育研究活動の質保証と改善に資する教学マネジメントを
目指して」：特集号論文 4件

〔論稿〕 一般論文 8件





【センター重点課題】
学士課程における教育目標とカリキュラムの最適化に向けた提案

【2022年度計画】
**神戸スタンダードの策定意図と経緯を調査した上で、全学DPと
同スタンダードの関係性を整理し、現行制度の課題を指摘する。**

成果の概要

- ・神戸スタンダード（以下KS）は、第3期の教育改革に際して、**神戸大学らしさを対外的にアピールし、教育のグローバル化を推進する手段**として策定されたことを明らかにした。
- ・KSは学士課程教育改革の全体像を表す概念として提案されたが、議論の過程で**教養教育の目標として限定されるに至った**ことを明らかにした。
- ・**KSのキーワードの大部分は全学DPに援用されている**ことがわかった。
- ・**KSの運用上でさまざまな矛盾が生じている**ことを指摘した
(例：全学委員会では教育課程別DPの達成度を把握・共有できていない点、KSを特定の教養科目だけで達成することは難しい点など)

今後の課題

- ・教養教育に限定せず、全学DPと照らし合わせながら、全学共通授業科目の教育目標をどう設定するかを検討する必要がある。
- ・他の主要大学において、全学DP、全学教育の目標、その実施体制（カリキュラム、教育部会など）の関係性を整理して、本学への知見を得たい。

成果物
／参考資料

- 【論文】・近田政博(2023)「神戸スタンダード制定の経緯と意図－全学ディプロマ・ポリシーとの関係性に注目して」神戸大学大学教育推進機構編『大学教育研究』第31号、pp.25-43.
- 【論文】・葛城浩一(2023)「神戸大学におけるディプロマ・ポリシーの現状と課題」神戸大学 大学教育推進機構編『大学教育研究』第31号、pp.3-23.



【センター重点課題】
教育の質保証のための学修成果のアセスメントに関する研究

【年度計画】
学修成果の可視化という観点から、卒業時アンケート等の既存の調査の見直しを行う。また、学修成果の可視化機能を有するLAViSの運用上の課題を明らかにする。

成果の概要

- ・ DPとの対応という観点から、卒業時アンケート等の既存の調査を確認した結果、そもそも既存の調査ではDPの構成要素との対応が明確ではなく、**学修成果を測定する調査として適切でない**こと等を明らかにした。
- ・ また、LAViSにおいてDPの達成状況とされる値は、カリキュラムマップ（CM）のデータに準拠しているが、DPの記載内容とCMの記載内容との対応に問題があり、**CMを大きく見直す必要がある**こと等を明らかにした。
- ・ 学修成果の可視化のツールである「ディプロマ・サプリメント」の導入に向けて検討を行い、具体案を提示するとともに課題を明らかにした。

今後の課題

- ・ DPとの対応を考慮しつつ、卒業時アンケートの修正を行う必要がある。
- ・ LAViSにおいてDPの達成状況とされる値がどれだけ信頼できる値なのか、検証を行う必要がある。

成果物
／参考資料

【論文】葛城浩一(2023)「神戸大学におけるディプロマ・ポリシーの現状と課題」神戸大学大学教育推進機構編『大学教育研究』第31号、pp.3-23.
【発表】葛城浩一(2023)「神戸大学における教学IRの課題」神戸大学&広島大学共同高等教育公開セミナー『教学IRを教育改善につなげる』
【資料】大学教育推進機構執行部会議資料(2022.2.20)「本学における₅ディプロマ・サプリメントの導入に向けて」



【年度計画】 ケース教材の作成方法を修得し、コンテンツの基幹部分を作成する。

成果の概要	<ul style="list-style-type: none">・国際共修の意義は、国内学生と外国人留学生をはじめ、多様な属性をもつ学生が大学で共に学ぶことによって起こりうる摩擦や相乗効果について、多面的に学ぶことにある。従来は概説にとどまり、授業で活用可能な具体的な教材が存在しなかった。・神戸大学ダイバーシティ推進宣言に記されている多様性の中から「文化、言語、出自、年齢、学歴、心身の特徴」に関連する項目を取り上げ、国内外の大学で実際に起きた異文化接触の事例をもとに、ケース教材を7件作成した。本教材を通じて、多様な思考、行動規範、価値基準が存在することを認識し、物事を複数の視点から考察できるようになることを目指す。・各ケース教材は、ケース本体、授業で活用するためのディスカッショントピックや発展課題、解説（背景、理論、概念の紹介）から構成される。・令和5年度より神戸大学内の授業で活用し、改訂を重ねる予定。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none">・あらゆる学生、あらゆる教員が知っておくべき国際共修の要素とは何か、それをどのように伝えるかを国際共修事業チームで継続的に検討する。・学生目線、授業担当教員の目線に立った本教材の改善点を明らかにしたい。
成果物 ／参考資料	【教材】国際共修事業チーム編(2023)『ともに学び、ともに歩むーケースで学ぶ多文化間共修』ベータ版（PDF） （大学教育研究センターの近田・大山は国際共修事業チームの一員）

【大学教育研究部門の課題】

大学院生に求められる教育スキルに関する実践研究

【年度計画】

試行中の「大学教員インターンシップ」プログラムの効果を検証し、本格運用に向けての課題を明らかにする。



成果の概要

・将来の大学教員を目指す神戸大学の博士課程大学院生（計4名）を神戸学院大学と湊川短期大学に送り出し、特定の受け入れ教員のもとで**2週間程度の短期研修を試行**した。この研修を通じて、大学院生が大学教員の職務の多様性や複雑さを理解し、**大学で教壇に立つ上で必要な基礎スキルやアカデミック・キャリアへの意識を深めることを促した。**

- ・上記のうち1名は私立大学教員に採用された（2023年4月着任）。
- ・上記の取組およびその課題について、学会発表、紀要論文にまとめた。

今後の課題

- ・神戸大学として大学院生に対する体系的・統合的なキャリア教育・支援のあり方について、博士支援推進室と連携して検討する必要がある。
- ・受け入れ大学を拡充し、大学院生がより多様な高等教育機関、受け入れ教員のもとで研修を受けられるようにしたい。

成果物 ／参考資料

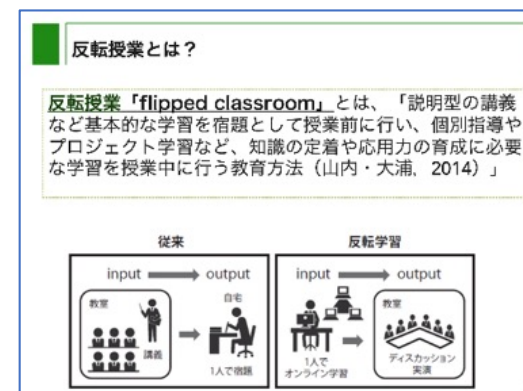
【論文】近田政博、葛城浩一、鶴田祥子、倉澤悠維(2023)「『大学教員インターンシップ』の試行と課題」神戸大学大学教育推進機構編『大学教育研究』第31号、pp.115-29.

【論文】近田政博(2023)「大学院共通教育をめぐる議論と実施上の課題」神戸大学大学教育推進機構編『大学教育研究』第31号、pp.89-100.

【映像教材】神戸大学 大学教育研究センター編(2023)「大学教員準備講座」2022年8月実施

【大学教育研究部門の課題】
 学生の深い学びを促す教育学習支援コンテンツの開発

【年度計画】
 ポストコロナの大学教育を見据えた動画教材の
 活用に関する知見を提案する。



成果の概要

- ・ポストコロナにおいて、コロナ禍で作成した動画をどのように今後の授業で活用するのかの具体的な提案として、**反転授業の実施方法の紹介を中心としたFDを実施**した。ここで紹介した知見は、ポストコロナにおける効果的で新しい授業形態の可能性が示された。
- ・FD研修のアンケートは、回答者11名中10名が「満足している」「どちらかといえば満足している」と答えており、**研修会が概ね有用であった**ことが示された。

今後の課題

- ・神戸大学の優れた教育資源を発掘するために、ICTを活用した授業のグッドプラクティスの抽出とそれに基づいた事例集を開発する
- ・ハイブリッド授業に関わる教育支援（FD）コンテンツを開発し、BEEF+の普及を行う。

成果物
 /参考資料

- 【教材】大山牧子(2023)「過去に作成した動画教材を 活用した 授業デザイン」『神戸大学FD研修会資料』
- 【アンケート結果】大学教育推進機構主催FDアンケート結果



【年度計画】 他大学の教学IR推進体制について調査を行う。また、教学IR関係者を対象として、有識者による情報提供の機会を設ける。

成果の概要

- ・他大学の教学IR推進体制について、旧帝大や関西の主要私立大学の当該組織やその組織構成、目的・業務等について情報収集を行い、「何を」「どこまで」やるかはそのありようは多様であることを明らかにした。
- ・また、教学IR関係者を対象とした情報提供の機会として、広島大学との共同で『教学IRを教育改善につなげる』と題したセミナーを実施し、学内外から100名近くの参加者を得た。

今後の課題

- ・本学の教学IR推進体制を構築していく上で、「何を」「どこまで」やるか検討していく必要がある。
- ・その一方で、実際にKDWHに格納されたデータ等を分析してみることを通じて、教学IR推進体制を検討していく必要がある。

成果物
／参考資料

【資料】大学教育センター教員会議資料(2022.5.26)「他大学の教学IR組織の現状について」

【セミナー】神戸大学&広島大学共同高等教育公開セミナー『教学IRを教育改善につなげる』(2022.11.18)

【論文】大山牧子(2023)「教学IRを教育改善につなげるための課題と展望」神戸大学大学教育推進機構編『大学教育研究』第31号、pp.59-68.
鳥居朋子・岡田有司・山田剛史・林透・高橋哲也・村上正行・串本剛・大山牧子(2022)「学部における教育情報の活用及びIRの現状と課題—全国調査と事例研究の分析を通して—」『大学教育学会誌』, 43 (2) ,pp.89-93.